

## 飛島建設株式会社

阪神・淡路大震災を契機に「防災の飛島」に  
防災の技術とノウハウをシステム化し提供

1883年に創業した飛島建設は、ダムやトンネル工事など土木を主体にした建設会社で、「水力の飛島」「土木の雄」として名を馳せ、日本経済を支えるインフラを整備・構築してきた。同社が

「防災の飛島」としてかじを切ることになったのは、1995年に起きた阪神・淡路大震災がきっかけだった。

震災直後から「人々の生命・財産を災害から守り、安全・安心の生活を確保する」という建設業の自分を果たすために同社は動き出す。「震度7でも人命を守る建物を造ること。既存の建物は耐震



飛島建設株式会社  
代表取締役社長  
乗京正弘

補強することが課題でした。総力を挙げて新技術の開発を進め、画期的な防災技術の数々を生み出しました」と語るのは乗京正弘社長だ。

注目されたのは5年もの開発期間を要した「トグル制震ブレース」。これは振動エネルギーを消散させて衝撃や振動を軽減する装置だ。耐震方式や免震方式の装置が現れる中で、同社は制震方式を開発し飛び抜けた性能を得た。この装置は人々が施設を利用していても設置工事が行えるため、学校や役所などで需要が高まった。

「2011年に発生した東北地方太平洋沖地震では、多くの建物が損害を受けるなか、トグル制震ブレースを設置していた建物42棟のすべてで被害がなく、避難所として活用され注目されました」と当時を振り返る乗京社長。

後にこの派生技術で建物の壁に装置を埋め込む制震システム「レ

ンズダンパー」、リサイクル材料を活用する地盤防災工法「空洞充填工法」、木材の活用で液状化対策と地球温暖化対策を行う「丸太打設液状化対策&カーボンストック工法」などが開発されていく。

防災全般に貢献する  
防災サイクルを整備

こうした防災技術をより効果的かつ総合的に活用するシステムが「防災サイクル」だ。全国の営業拠点などを活用して緊急対応や復旧・復興支援の体制を作る「事前準備」、災害発生時の応急対応に

取り組む「災害応急対策」、速やかな復旧・復興を支援する「復旧・復興」、都市型災害のリスク軽減のために防災・減災ソリューションに取り組み「減災」の4つのステージにより、社会に提供できる技術やノウハウを整備し、防災に定評のある会社を強化する。さらに同社は顧客に新たなサ-



東日本大震災後の仙台市役所の制震装置。震度6強を観測した仙台では多くの建物が損傷したが、トグル制震ブレースにより損害をまぬかれた建物は、被災者の避難所として人々の安全を確保し注目を集めた。

ビスを提供する会社になるべく変革を推進している。「当社がこれまで培った建築、土木、防災・減災技術さらに新事業も含め、建設の領域すらも超えて、お客様のあらゆるニーズにワンストップで応えられる。建設コンシエルジュエを目指します。まずお客様の利益を考へる『利他利己』の創業精神の下、顧客満足度を高めていきます」と乗京社長は「安心・安全」防災・減災」社会の実現に一層尽力する考えだ。

## Profile Data

## 飛島建設株式会社

本社 東京都港区港南1-8-15  
Wビル5F  
電話 03-6455-8300  
創業 1883年(明治16年)  
資本金 55億1,994万円  
事業内容 土木建築工事および請負業、地域開発、都市開発、環境整備など  
<https://www.tobishima.co.jp/>